

# 「今がその時である」

ヨハネ 4章23節



兄弟姉妹のみなさま 明けましておめでとうございます。

聖マリアの祈りに支えられて、新しい年をゆっくりと歩みましょう。お変わりありませんか。昨年には重大な出来事もあったかと思えます。心新たに、前を向いて進んでまいりましょう。

十字架の聖ヨハネの著作を読みながら思い起こす福音書の言葉があります。

「まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。」

(ヨハネ4.23)

イエスはここで、サマリアの女の心の叫び、渇きをしっかりと受け止め、それに応えておっしゃいました。「婦人よ、私を信じなさい。あなた方が、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。」これは、私達が無意識のうちに求めている真の礼拝があなたにも与えられる、という約束です。

「父を礼拝する時が来る」イエスの父である神をあなた自身の父として礼拝するようになる、その時がもう来ています。

私達は自分を本当に愛してくださる父なる神と出会い、その方を礼拝することが出来るようになる。その父なる神との愛の関係に生きる真の礼拝があなたに与えられているのだ、とイエスは語っているのです。その真の礼拝は「この山でもエルサレムでもない所で」つまり、ユダヤ人とサマリア人の対立はもはや意味がなくなる、そういう人間の間違いや対立を超えて、真の礼拝が与えられる時が来ていることを意味します。

「私を信じなさい」とイエスは言っておられます。イエスを信じるとは、神が肉となって私達の中に宿り、私達の罪をすべて背負って十字架にかかって死んでくださったことによって、神が私達の罪を許してくださり、私達をイエスと共にご自分の子としてくださった、その父なる神の救いの恵みを信じることです。イエスを信じることによってこそ、私達は神の子とされ、父を礼拝する恵みが与えられるのです。

ここで言われる真の礼拝とはイエスが与えてくださる生ける水です。その水を飲む者は決して渴くことなく、その水はその人の内で泉となり、永遠の命にいたる水が湧き出る。このことが、イエスを信じることによって与えられる真の礼拝です。そこにおいて、私たちは常に新しく、生ける水である神を信じ、渇きを癒され、潤され、永遠の命の道を歩み続けることが出来ます。罪の闇の中にあり、愛を失い、自分の人生は失敗だったと絶望している人々の魂の渇きを本当に癒す水は、イエスを通して、この神を礼拝することの中でこそ与えられます。

「今がその時である」と言われた、「今」…それはイエスが私達と出会い、語りかけてくださっ

ている今です。私達が生きた水、永遠の命に至る泉である真の礼拝に生き始める時が、イエスによって与えられた今なのです。

「父はこのように礼拝するものを求めておられる」父なる神御自身が、真の礼拝を求めておられます。これは単に、真の礼拝のために心を整えて、悪い思いを捨て、心の波風を鎮めるというような、私達側の心構えではありません。霊である神が私達の礼拝を求めておられる、そのためにご自身の霊である聖霊を送ってくださって、私達に語りかけ、真の礼拝へと招いてくださっています。罪の闇の中で苦しみや悲しみによって心が荒れ狂っている私達が、その聖霊の働きによって救い主イエスと出会い、イエスを通して神が私の父となってくくださったという救いの真理の中で、真の礼拝が与えられます。

イエスと出会ったサマリアの女は、水瓶をそこに置いたまま、井戸の水を汲むことを忘れて町に行きました。町の人々の目を避け、交わりを断ち、そのために真昼に水を汲みに来ていた彼女が、街に入って人々に積極的に語りかけ始めたのです。そして人々をイエスのところに連れて行きました。「さあ、見に来てください、私が行なったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」これは、私達がキリストを証しする言葉の模範です。「私の抱(かか)えている闇を、渴きを、すべて見通しておられる方が、私に出会って下さり、生きた水、乾くことのない水を与えてくださった。その方のところにあなたも来てほしい。あなたもその方と出会ってほしい。」という証の言葉です。この女性はそこから救い主キリストを証しする者として新しく生き始めました。(2月に続く)

「主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」(ヨブ記1. 21)

いつどこにあっても私たちの生涯が、主の愛を賛美するものでありますように。

2023年1月

カトリック上野毛教会 主任司祭

ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.